

第69回（令和4年1月26日） 新型コロナウイルス感染症対策 アドバイザリーボード	資料3-4
西田先生提出資料	

# 都内主要繁華街における 滞留人口モニタリング

東京都医学総合研究所  
社会健康医学研究センター

# 東京都内・主要繁華街 滞留人口モニタリング (1月23日までのデータ分析：要点)

## 【直近の人流の状況】

- 夜間滞留人口：夜間滞留人口（18-24時）は、前週増加していたものの、直近1週間では再び減少に転じる（前週比：6.7% 減）。特に、重点措置適応後の週末から（1月21日以降）、深夜帯の滞留人口を含め急減している。
- 昼間滞留人口：年明けから2週連続で増加していたものの、直近1週間では減少に転じる（前週比2.3%減）。
- 夜間滞留人口・世代別占有率：中高年層、若年層ともに週後半から急減。一方、高齢層は横ばいで推移。
- 繁華街別夜間滞留人口：上野・銀座・新宿二丁目・歌舞伎町・池袋で減少。一方、六本木・渋谷では増加。

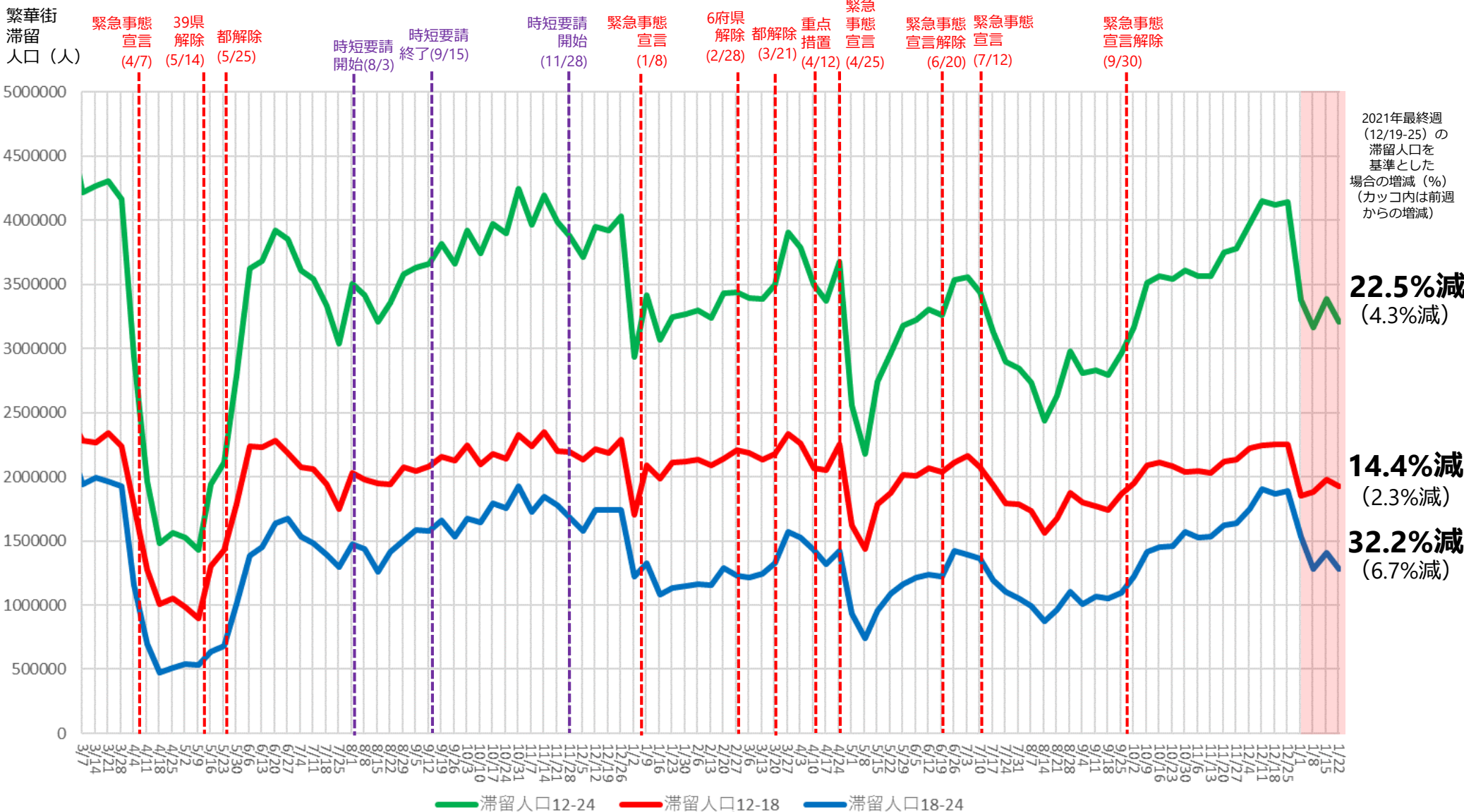
## 【ステイホーム指標】

- 居住地から5キロ圏内、3キロ圏内のステイホーム率は、54.2 %（前週比：1.5% 増）、45.5 %（前週比：1.5% 増）。重点措置適応後の週末から上昇している。

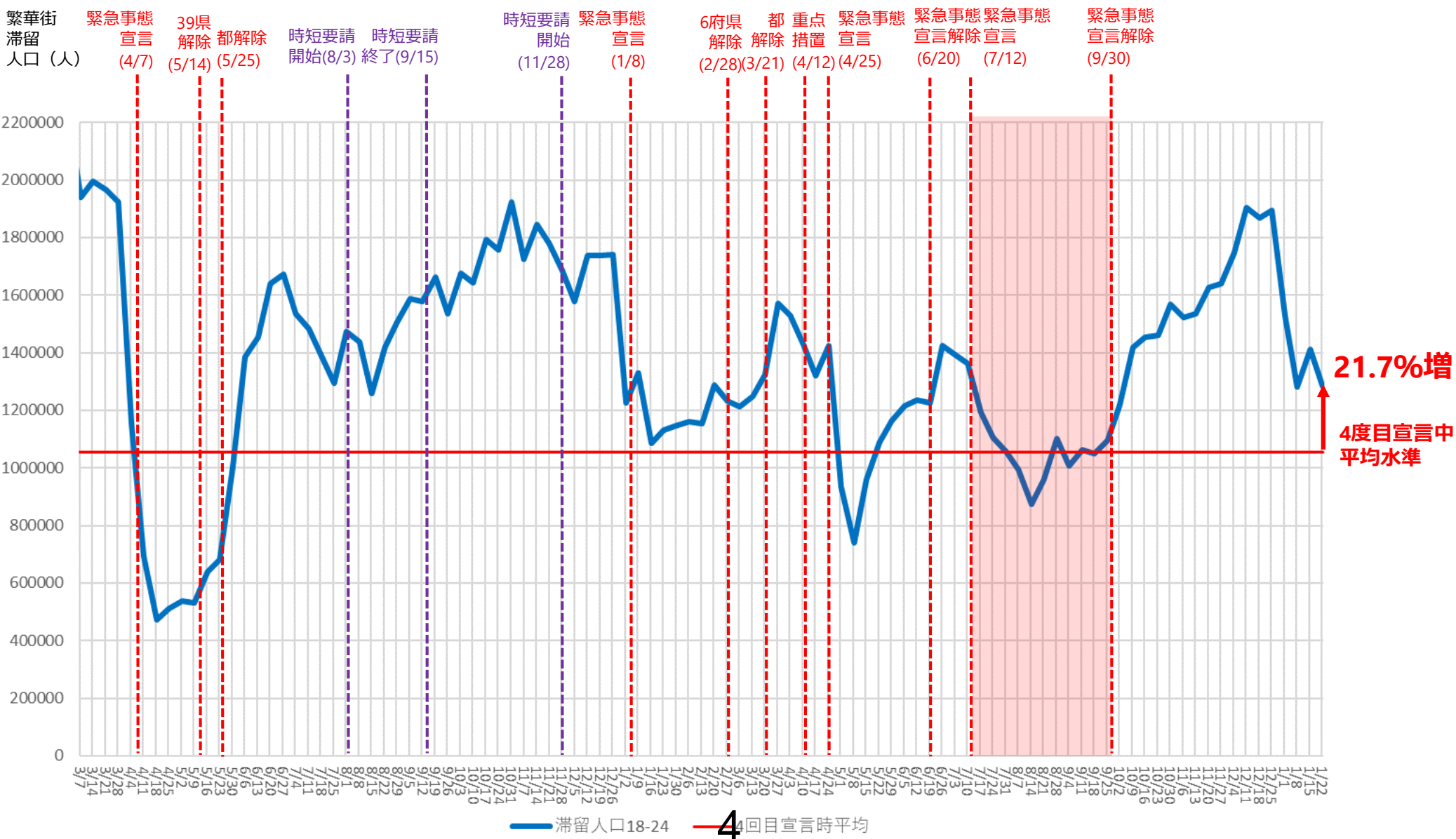
## 【大型ショッピングモール・フードコートの滞留人口】

- 都心部・近郊部ともにショッピングモールの滞留人口は減少している。特に、都心部の減少が顕著。不要不急の外出を自粛しはじめている様子あり。

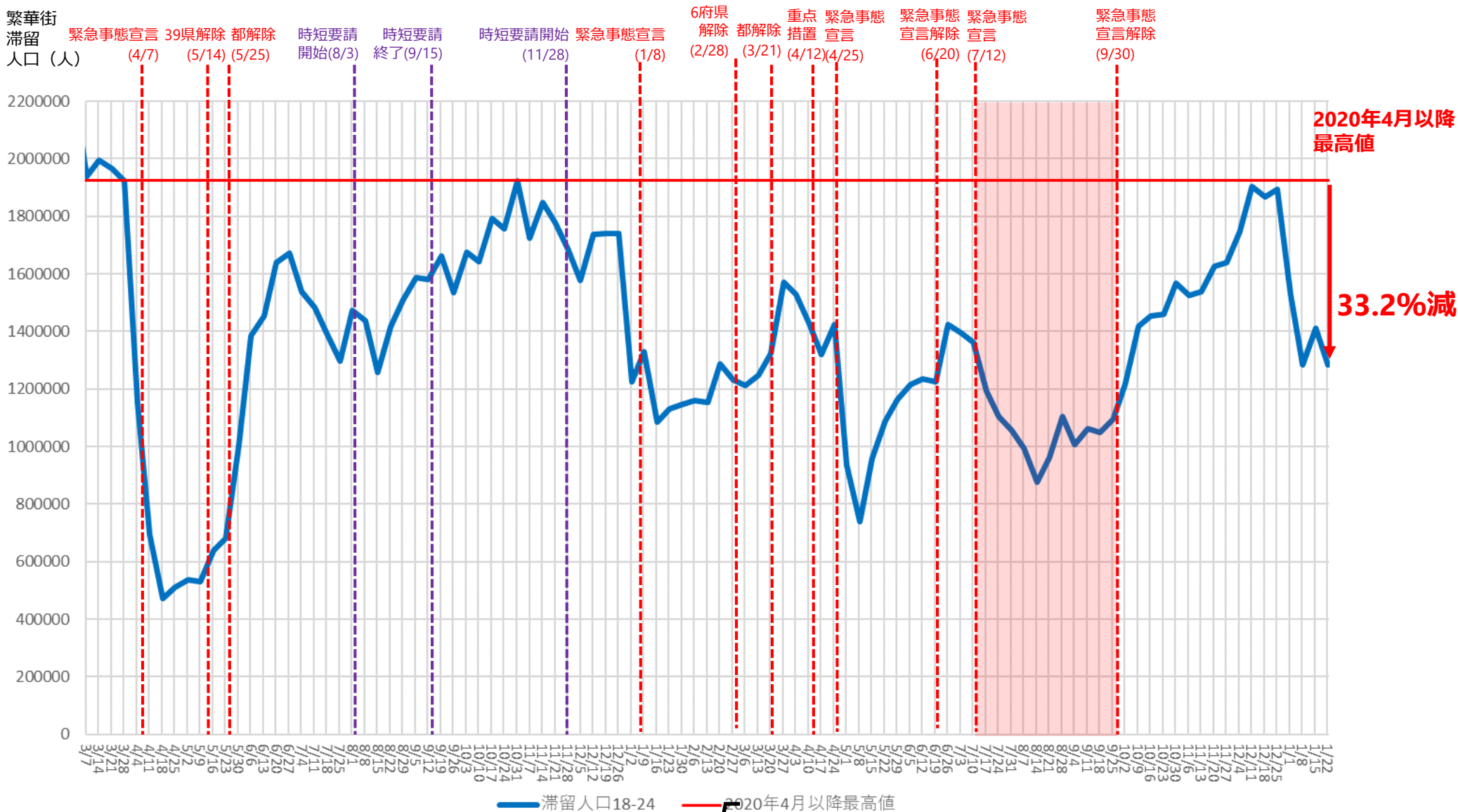
# 時間帯別主要繁華街滞留人口の推移（2020年3月1日～2022年1月22日）



# 前回宣言期間中の夜間滞留人口（18-24時）平均水準との比較 （2020年3月1日～2022年1月22日）



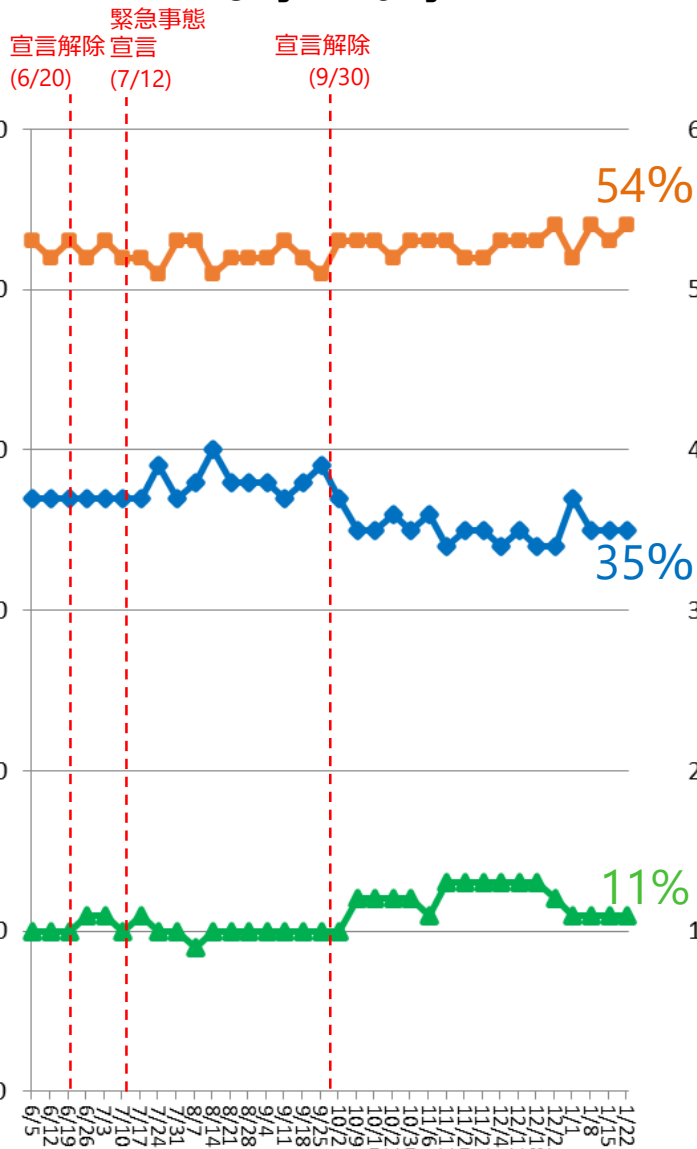
# 前回宣言期間中の夜間滞留人口（18-24時）平均水準との比較 （2020年3月1日～2022年1月22日）



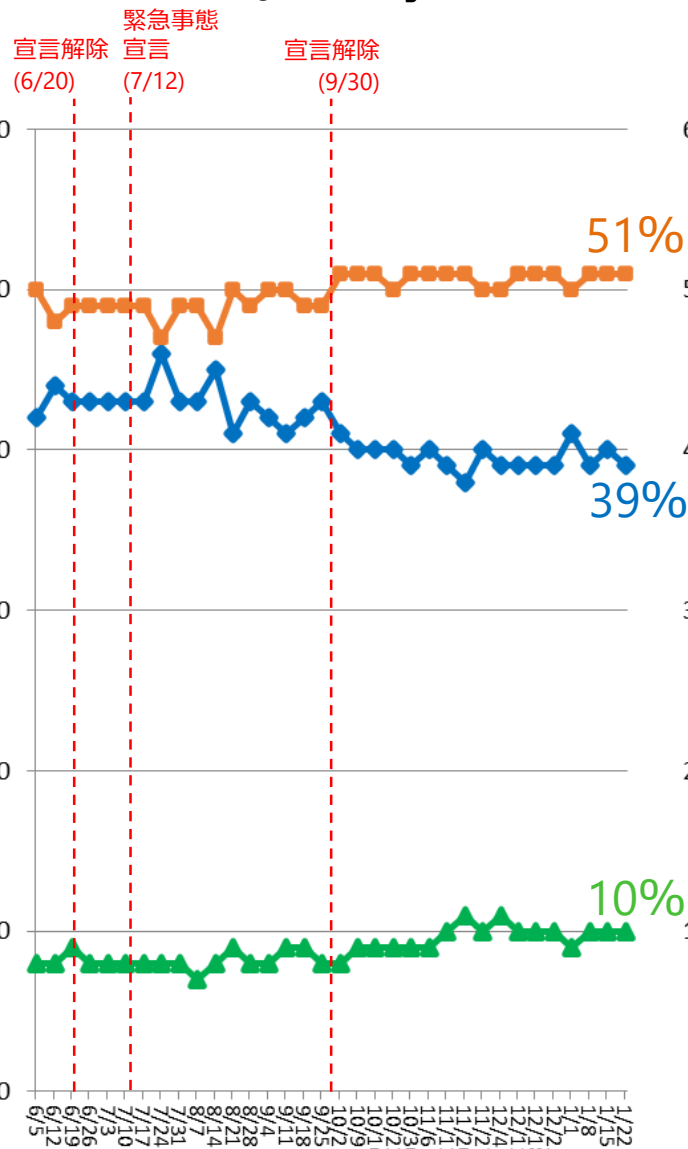
5

# 都内主要繁華街における夜間滞留人口の年代別占有率（2021年6月1日～2022年1月22日）

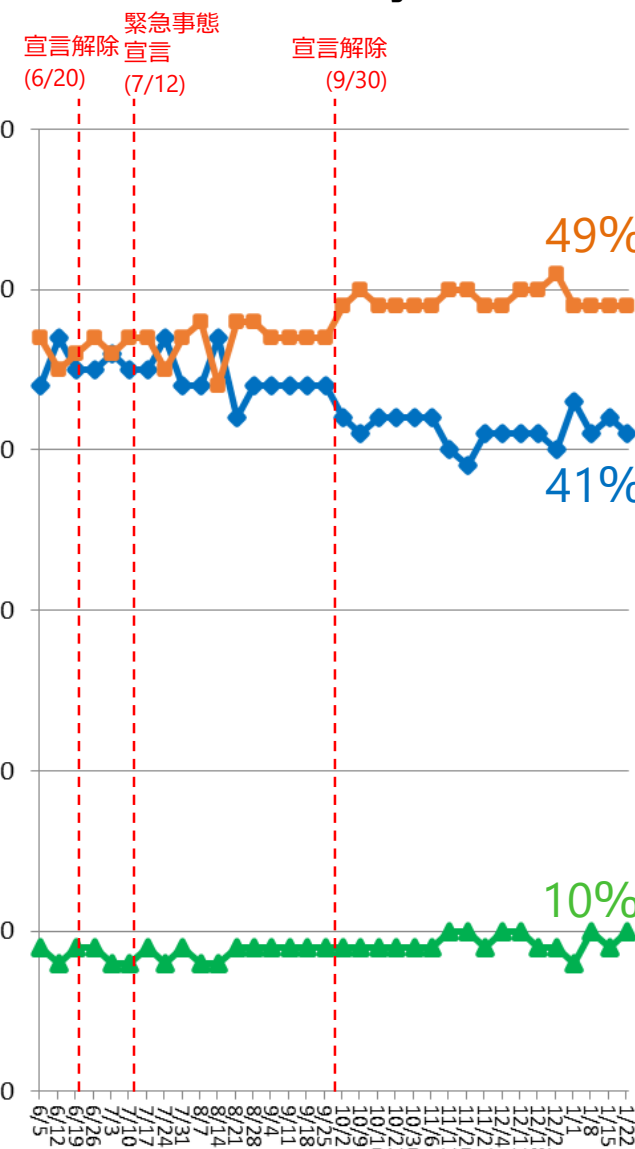
## 18時～20時



## 20～22時



## 22～24時





# 年齢別夜間滞留人口推移（22-24時・7日間移動平均：2021年3月7日～2022年1月22日）

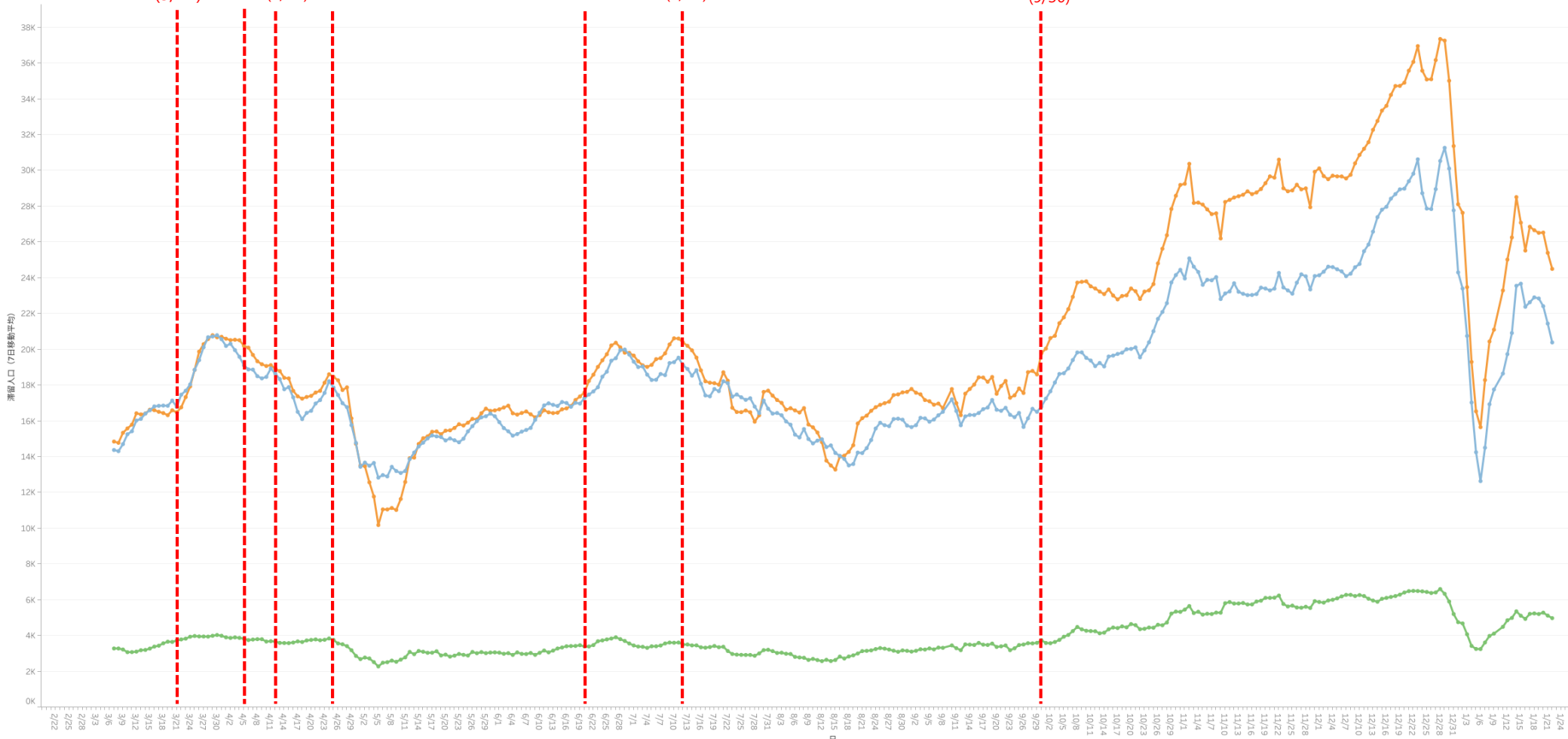
対象繁華街：上野・銀座・六本木・渋谷  
新宿二丁目・歌舞伎町・池袋

繁華街  
夜間滞留  
人口（人）

都解除 (3/21)  
3府県重点措置 (4/5)  
都重点措置 (4/12)  
緊急事態宣言 (4/25)

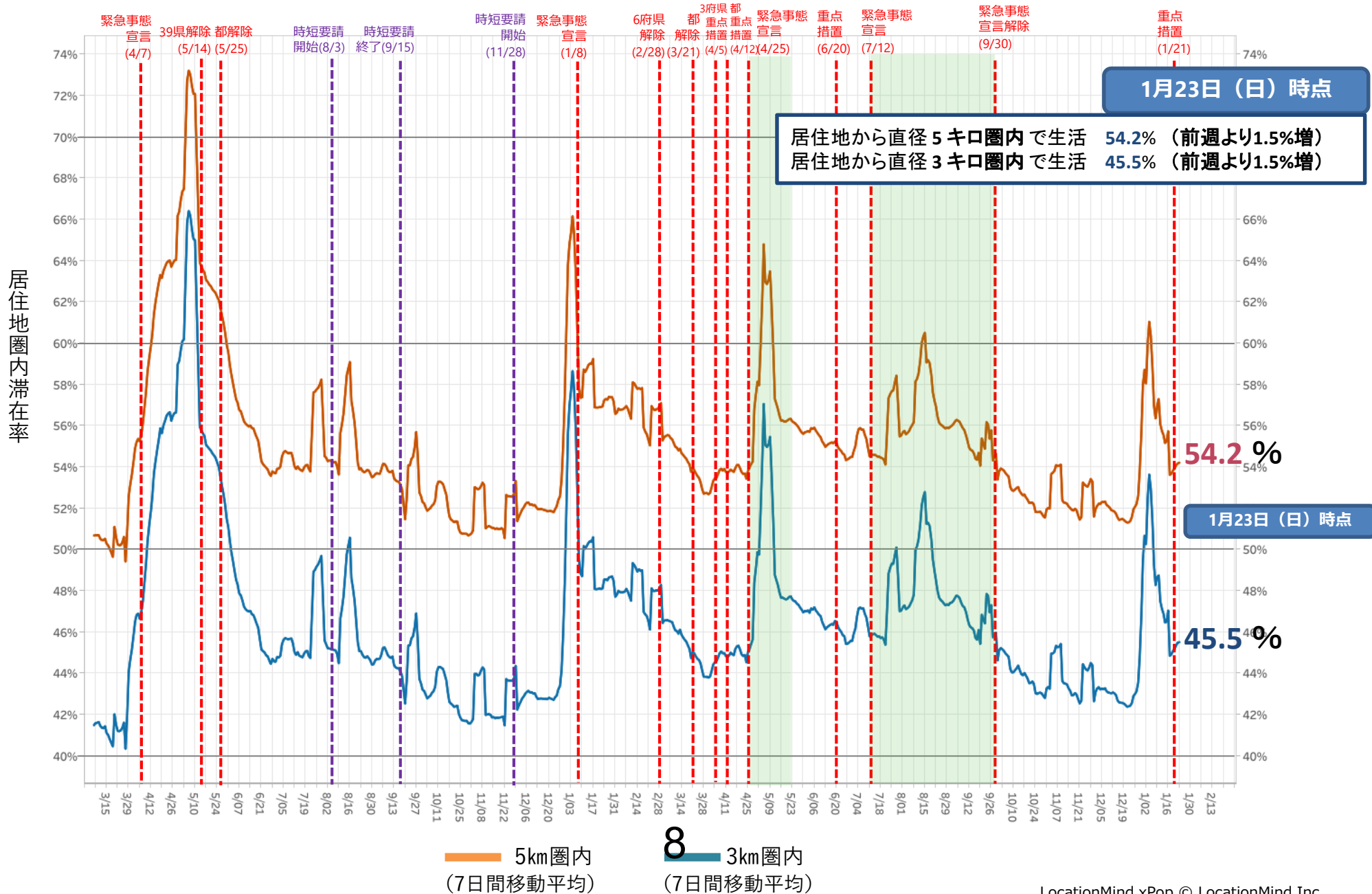
重点措置 (6/20)  
緊急事態宣言 (7/12)

緊急事態宣言解除 (9/30)



15~39歳 40~64歳 65歳以上

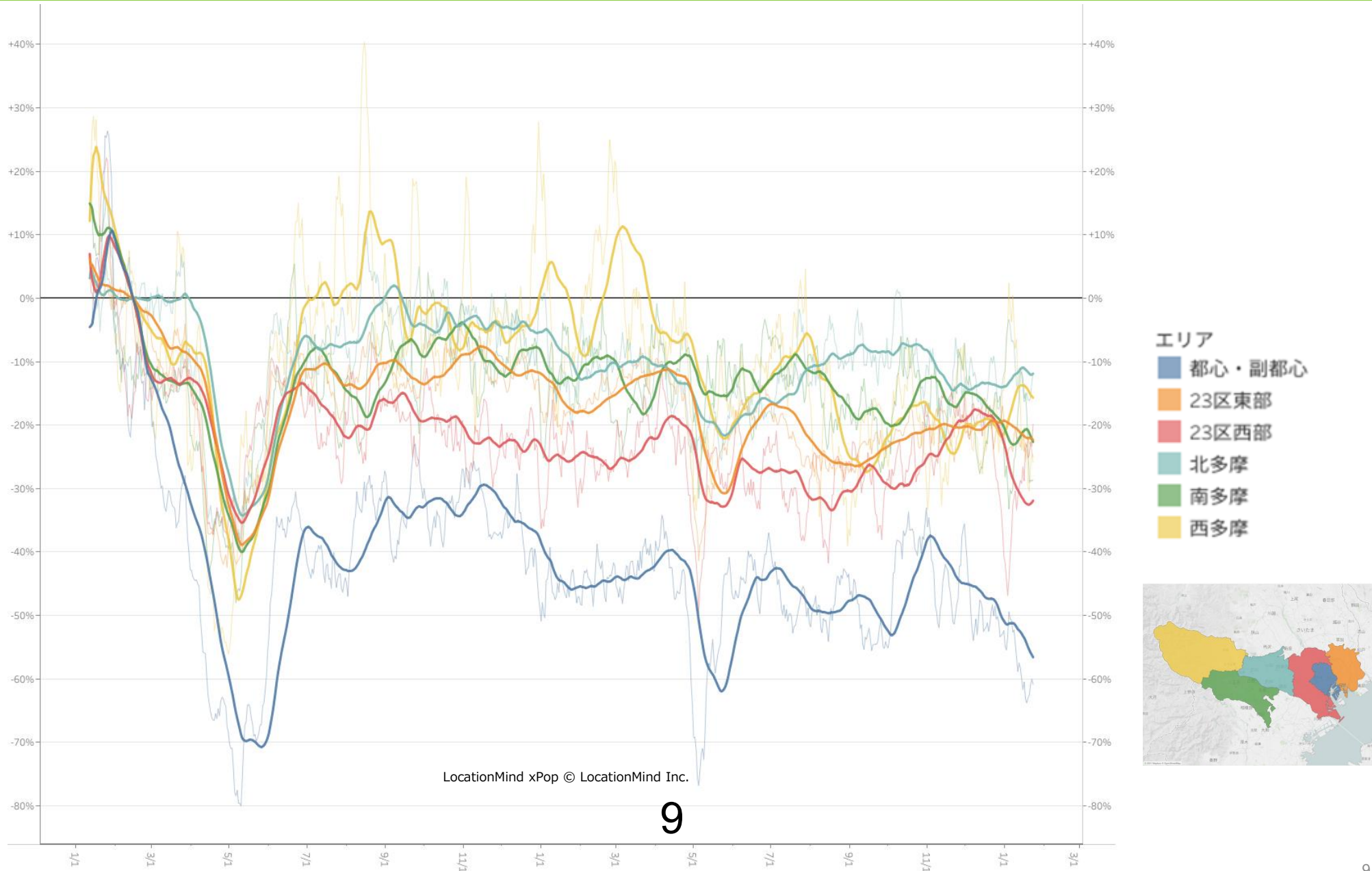
# ステイホーム指標（2020年3月1日～2022年1月23日）：東京都内全域





# 都内大型ショッピングセンター内のフードコート滞留人口推移

地域別：2020.1.12-2022.1.23：10-19時（モニタリング対象28施設）



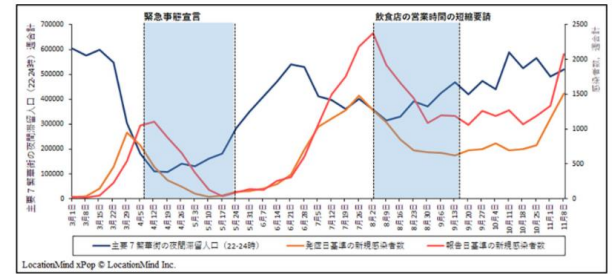
# ハイリスクな時間帯の繁華街滞留人口を正確にとらえる

- GPSの移動パターンから**主要繁華街に遊興目的で移動・滞留したデータを抽出** ※

- **ハイリスクな時間帯の滞留人口量を1時間単位で推定(500mメッシュ単位)**

- **LocationMind ⇒ 都医学研**
- **夜間滞留人口データとその後の**

**新規感染者数、実効再生産数との関連が報告されている** ※※



※GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後、職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

LocationMind xPopのデータは、NTTドコモが提供するアプリケーションサービス「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。位置情報は最短5分ごとに測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。

※※ Nakanishi M, Shibasaki R, Yamasaki S, Miyazawa S, Usami S, Nishiura H, Nishida A. On-site Dining in Tokyo During the COVID-19 Pandemic: Time Series Analysis Using Mobile Phone Location Data. *JMIR mHealth and uHealth*, 2021